

共育の丘だより 第10号 2018秋

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はくくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

昨年度、山口大学では全学共通のナンバリングの付番ルールを策定しました。それを受けて今年度前半には全学部で付番作業が行われ、新たに策定されたナンバリングは来年度の履修の手引き等に掲載され利用される予定です。また、一昨年度末のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改訂に伴い、今年度はカリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの改訂作業も併せて行われています。一方、共通教育では全学共通科目である「情報リテラシー演習」、「情報セキュリティ・モラル」に数理・データサイエンス関連の内容を取り込み改訂された「データ科学と社会Ⅰ」、「データ科学と社会Ⅱ」が今年度からスタートしました。この授業では、企業の方を講師にお招きし、各企業の中での実際の応用例を講義していただく時間もあり、既に多くの県内企業の方にお越しいただきご講義いただきました。なるほど、こういう様に活用されるのか、このような実践がされているのか、と思うことも多く、学生も刺激になり勉強になっているものと思います。ご講義いただきました皆様にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

新しい共通教育がスタートして5年がたちます。この間、英語教育の見直しや上述のデータサイエンスの導入などのカリキュラム改訂が行われました。また、アクティブ・ラーニングの推進やFD・SD活動等に努めてきました。一方で、学部専門基礎や高年次の英語教育、部会・分科会制度など、整理すべき課題も多くあります。予算が縮小し、また人員削減が進み、教職員一人一人にかかる負荷がますます重くなる中、改革疲れを起こすことのない持続可能な教育をオール山口大学で考える必要があるように思います。

（菊政 勲 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3 同志社大学訪問レポート
- P4-5 学生FDサミット2018夏 参加記
- P6-7 「ちょうちんまつり」活動レポート
& やまぐち探訪記
- P8 編集後記

【※ 本ニュースレターは、山口大学基金「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

大学教育センターの動き

FD・SDとは？

はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

教学IRをテーマに教育改善FD研修会開催！

2018年度の学部・研究科主催「教育改善FD研修会」のテーマは“教学IR”です。

2016年度に、大学教育センターの下に「教育開発部」「教学IR部」を新たに改編・設置されて以降、教学IRの環境



整備や実質的運用が喫緊の課題となっています。「教学IRとは何か」「教学IRを通して何ができるのか」「教学IRを活用するとどのような効果があるのか」といった点について、学部・研究科教員に分かりやすく説明し、理解を深める機会提供を行うのが今回の教育改善FD研修会の趣旨目的です。

教育改善FD研修会では、担当の大学教育センター専任教員が「教学IRとは」と題し、教学IRの目的や手法等について、島根大学の事例を交えながら概要説明した後、本学の教学IRの事例として、林寛子 アドミッションセンター准教授より「入学者のデータを用いた検証・改善例」を紹介しています。具体的には、特別選抜による入学者が大学教育に適応でき

たかという問いについて、①学業成績（GPA・TOEIC）、②在籍状況、③大学卒業後の状況、④大学教育における自己意識の分析を行い、平成28年度入試からのAO入試改善に結び付けたことを説明しているほか、平成28年度AO入試改善後のA学部でのAO入試入学者1年次のTOEIC成績の改善事例を紹介しています。

各学部・研究科からは教学IRの今後の取組への期待が寄せられ、ビックデータを活用した探索的なアプローチや学位プログラムを通じた学生の学修成果の達成度測定を進めていくことが求められています。



正課外教育プログラムで学修支援の充実を図る！

近年、アクティブ・ラーニングが浸透する中で、主体的な学びを支える学修支援の重要性が増しています。

大学教育センター（YU-AP推進室）では、初年次学生向けのスタディスキル（ライティング、プレゼンテーション）を強化する正課外教育プログラム（スチューデント・リーダー・プログラム（SLP））を提供しています。毎年度、150名前後の学生が受講し、満足度の高い内容となっています。

参加者アンケートを見ると、正課授業で習う機会が少ないことが参加動機の要因となっており、今後は正課授業に盛り込むことを視野に更なる充実を図っていきます。



同志社大学訪問レポート



知識はここで目をさます「ラーニング・コモンズ」

8月27日（月）、ラーニング・コモンズ視察と学習支援及びピアサポートに関する意見交換をするために同志社大学今出川キャンパスにある良心館を訪れました。良心館のラーニング・コモンズは国内最大級の広さを生かし、学生のアイデアをカタチにできるようサポートしてくれる環境になっています。今回の視察と意見交換で私が興味深く感じたのは以下の2つのエリアです。

1. 創作活動にはもってこい！「マルチメディアラウンジ」

良心館には2F.クリエイティブ・コモンズと3F.リサーチ・コモンズがあり、用途や形態、コンセプトの違った複数の空間があります。その中でも「マルチメディアラウンジ」という空間は、最新機器を備えた編集スタジオになっており、専属スタッフも常駐しているので映像の加工や編集など、スタッフの指導を受けながらデジタル技術を手軽にマスターできます。また、プリントステーションが近くにあり、大型ポスターやチラシ・パンフレットの印刷やオリジナルTシャツの作成なども可能です。創作活動の際に必要なソフトや、3Dプリンターなどの最新機器を使用でき、大学内で学び使用し作成できる環境となっています。

2. 答えを教えない指導方針「アカデミックサポートエリア」

ここはラーニング・アシスタントと呼ばれる院生の学生スタッフに学習相談ができるエリアです。ここでは「答えは教えない」というスタンスをとっています。1人の相談者に対し2・3人が対応し、3人いれば3パターンの選択肢を生徒に与えます。答えを教えるのではなく、複数の選択肢を与える。あくまで答えを見つけるのは生徒自身という自主性を持たせるやり方を取っています。

さまざまなヒト・モノ・コト・情報と出会い、それらを人と話すことで展開させ新しいものを創造する。また、それをサポートしてくれる学生スタッフなどの存在がいる。このことは学生生活の中で新しいスキルを身につけられるよい環境であると感じました。

（農学部2年 谷崎絵美里）



学生FDサミット2018夏

～IN 京都光華女子大学～



8月28日、29日に、京都光華女子短期大学にて「学生FDサミット2018夏」が開催されました。女子大で、加えて短期大学で学生FDサミットが開催されたのは、学生FDサミット史上初のことでした。今回はどんなサミットになるのだろうかと楽しみにしながら、構内に設置されている綺麗で気品ある講堂に入りました。

そこではまずオープニングが行われ、「学生FDサミットの父」と呼ばれる木野茂先生によって、学生FDサミットとは何か、それを始めた契機や思いを拝聴しました。学生FDサミットとは、多くの大学の教職員・学生が交流し、大学教育について、教職員・学生があるべき姿についてなどを、大学や互いの立場を超えて気軽に話し合う場であり、学生のための大学教育のさらなる発展を目的としたものです。

学生FDサミット2018夏

京都光華女子大学 / 京都光華女子大学短期大学部

2018.8/28 火 29 水

2018年度の学生FDサミットは「壊して作れ!!やる気と無気力の壁」をテーマに開催します。学生同士、教職員と、教職員と教職員の間に「壁」を感じたことばらばらな大学間の学生と教職員の垣根を越え、教職員と学生が互いに学びあえる場を創出する。京都光華女子大学 / 京都光華女子大学短期大学部の学生FDサミット事務局、教職員、一役を担っています。

詳細・お申し込みはこちら▼
<http://www.kohka-wj.ac.jp/staff/fdsmt18/>

●お問い合わせ先
 京都光華女子大学 学生サポートセンター
 Mail: jg1@mah.kohka-wj.jp Tel: 075-325-5320
 (住所： 龍泉・雲舟・光風)

1日目 12:00～19:00	
12:00～13:00	受付
13:00～13:30	オープニング
13:45～15:00	分科会①&②
15:15～17:00	しゃべり場
17:30～19:00	情報交換会
※開場受付料 前座料2,000円 学生1,000円	

2日目 9:00～15:30	
9:00～10:00	受付
10:00～10:10	オープニング
10:30～13:30	しゃべり場
13:40～14:40	成果発表
15:00～15:30	クロージング

プログラム

〈1日目：8月28日（火）〉

- 12：00～13：00 受付
- 13：00～13：30 オープニング
- 13：45～15：00 分科会①&②
- 15：15～17：00 しゃべり場
- 17：30～19：00 情報交換会

〈2日目：8月29日（水）〉

- 9：00～10：00 受付
- 10：00～10：10 オープニング
- 10：30～13：30 しゃべり場
- 13：40～14：40 成果発表
- 15：00～15：30 クロージング

次に、参加大学のうちの4つの大学による分科会が行われました。ひと講演につき約30分、その大学での活動や苦難を拝聴しました。ひとつ紹介すると、北海道江別市にある北翔大学さんでは、「翔タイム」と題し、学生が思う理想の教員

や嫌な教員を教員の方と話し合いをしたり、「趣味トーク」として先輩、教職員が入学生に向けて各々の趣味を紹介し、少しでも大学生活が豊かなものになるようにと、入学生のサポートをしていました。内容もそうですが、なにより実際に学生と教職員が交流している点、学生FDサミットの話合いだけで終わらずにきちんと行動に移している点がとても素晴らしいことだなと感じました。

こうして4大学の分科会は終わり、最後はしゃべり場となります。今回の議題は「やる気と無気力の壁を壊すには」というものでした。学生の中でも意欲的に学問を修めようとする人もいればそうでない人もいます。どうしたら多くの学生にやる気を出してもらえるかなどを他大学の教職員・学生と話し合いました。

こうして、充実した2日間を終えました。こうした活動があることをより多くの方に知ってもらえたら嬉しいですし、興味を持ってくれた学生さんは気軽にYU-AP推進室まで来てもらえたらと思います。

(経済学部2年 杉本寛晟)



参加者からの便り

人文学部3年 廣本明日香

わたしは今回の学生FDサミットを通じて多くのことを学び、体験することができました。特に学びとなったと感じたのは二日間通して行われたワークショップです。今回は“壁”をテーマに掲げ、その壁に対しどう向き合っていくかを考えました。わたしのグループでは教職員の方が多かったこともあり、今までになく教職員の方の本音の聞ける場となりました。

今まで学生目線でしか物事を考えていなかったこと、そして教員、職員、学生のそれぞれの立場からの思いを知ることの大切さに気づかされました。ここで得た経験をもとに、この山口大学でもそれぞれの立場の意見を尊重しながら、色々な教員、職員、学生の関わるような大きな企画もしていけたらなと思います。

人文学部3年 堀井さやか

京都光華女子大学での学生FDサミットに参加してきました。サミットでは分科会や情報交換会などスケジュールが盛りだくさんでしたが、その中でも「しゃべり場」での話し合いが一番収穫があったように思います。今回のしゃべり場では、学生、教員、職員の間にある壁をどのように壊すか、ということテーマにしてグループで話し合い、まとめ、発表しました。他の大学でこういった取り組みを行っているかを知ることができ、また、実際に職員や教員の方と話すことでそれぞれの立場の視点を得ることができたように思います。2日間という短い期間でしたが、精力的に活動を行っている方々との交流は楽しく、新しい刺激を受けることができました。FDサミットで得たことをこれからの活動に生かし、なにか新しいことにも挑戦していきたいと思います。

経済学部3年 川田海栄

8月28日～29日にかけて「女子大初〔短大初〕の学生FDサミットが京都光華女子短期大学にて実施されました。通年の学生FDサミットと同じく、1日目は分科会が行われ、2日目は「しゃべり場」が行われました。学生FDサミットのメインイベントともいえる「しゃべり場」は今回は8つの教室に分かれ、学生と教職員を混ぜた7～8人で構成されており、各自分達の大学には「どんな壁があり、その壁を壊すためにどんな取り組みが行われているか」を考え、より良い学生生活のために、学生と教職員などの壁を壊す方法を議論しました。私の肌感覚として、前回の学生FDサミットでの「しゃべり場」より、議論のフェーズは上がっていたのではないのでしょうか。なぜなら前回は、問題の本質を議論しなければならぬのに、発表をする際には「箱物の設立提案」をしたりだとか「イベント企画」してみるなど、表面的な提案が多い印象を受けましたが、今回は「壁」というものを強く意識することで、例えば学生と教職員との「壁」、学生と学生との「壁」など、様々な対象を考えることができたからです。しかし、今回はポスター掲示が無かったため、他大学との交流はあまり行われなかつたように感じます。あくまでも私の意見ですが、既存の横の繋がりがそのまま今回に反映されたとしても過言ではないと思います。議論は深まっている一方で、学生FDサミットのマンネリ化にも危惧したい所です。

農学部2年 谷崎絵美里

今回初めてのFDサミット参加でした。その中でとても面白いと感じたのは、大学ごとに考え方が違ったことです。教授と生徒の壁について話し合ったとき「研究室に気軽に遊びに行くかどうか」という話題になりました。教授の頭が固く何を話せばいいのか分からず行かないという学生と、そういう人ほど面白い話をしてくれるしよく遊びに行くという学生がいました。

教授の年齢など大学ごとに環境の違いはありますが、研究室によく遊びに行くという学生が楽しそうに自分の大学について話す姿がとても印象的でした。1日だけの参加でしたがいろんな大学の人の話は知らないことが多く楽しかったです。今まで自ら進んでやらなかったことをやるのは億劫に感じてしまいますが、まずは教授ともっと話してみたいなと思いました。

「ちょうちんまつり」活動レポート



8月6日（月）午後開催された、2018年山口七夕ちょうちんまつりの一つ「つながる大殿七夕ちょうちんの灯」（主催：つながる大殿七夕ちょうちんの灯実行委員会、協力：八坂神社）において、人文学部3年 廣本明日香さんと堀井さやかさん（大学教育センター学生スタッフ）が、山口市大殿地区の八坂神社境内にてイルミネーション&短冊企画を実現し、当日は家族連れや若者など約100名が訪れ、盛況を博しました。山口大学の教職員、学生も関心を示し、足を運んでくれました。

人文学部3年 廣本明日香さんと堀井さやかさんは、大学教育センター 林透准教授とともに、「つながる大殿七夕ちょうちんの灯実行委員会」に参画し、今回の企画準備を進めてきました。本来、昨年度実現する予定でしたが、昨年度は台風の影響で中止となったため、今年度、念願の企画実現となりました。

具体的には、八坂神社境内での「①階段のライトアップ」「②参道のライトアップ」「③縁結びの神様にちなんだ短冊企画」の三つの企画で、詳細は以下のとおりです。いずれも、「もっと若者に七夕ちょうちんまつりに足を運んでほしい」、「八坂神社境内付近をもっと盛り上げたい」という地域の方々の要望を踏まえた企画提案となっています。

①階段のライトアップ

- 七夕で織姫と彦星をつなぐ役割を果たすカササギをモチーフとした図を作る。（LEDライト使用）
- ツイッターやInstagramといった SNS にアップできそうな撮影スポットを作ることで 若い世代に来てもらう。SNS での広告効果で集客。

②参道のライトアップ

- 七夕の天の川に見立てた本殿までの道を作る。本殿から階段まで末広がりになるイメージ（LEDライト使用）
- 本殿までの道を作りライトアップすることで多くの参拝客に来てもらいやすくする。

③縁結びの神様にちなんだ短冊企画

- 短冊を書くスペースを階段下に設置。短冊はハートや星など、見たり写真を撮ったりするうえで興味を引くものを準備。
- 階段下で書いた短冊を、八坂神社本殿付近に飾る。



2018年8月6日、大殿地域の七夕ちょうちんまつりにYU-AP学生スタッフとして参加させていただきました。大殿地域の八坂神社で学生による新しい企画をしてほしいとの話をいただいたので、同じYU-AP学生スタッフである廣本さんと共に企画を作り上げていきました。企画を考えるにあたっては、ちょうちん祭りの実行委員の方に話を伺い、神社でちょうちんを飾っている参道だけでなく本殿まで参拝してもらうこと、八坂神社の「縁結び」にちなんだ催しを行うことの2つを軸とすることに決めました。私達が考えた企画は主に3つあり、①階段のライトアップ（カササギをかたどる）、②本殿までのライトアップ（天の川をイメージ）、③短冊の設置、といったことを提案させていただきました。ライトアップすることによって本殿やその付近に興味をもってもらい、短冊を本殿まで飾りに行ってもらうことを目的としました。

企画が決まった後は、ライトの配置確認や短冊づくりなど細々した作業に追われ、気が付いたらお祭りの当日になっていたような気がします。当日は、境内で火入れが終わった後の1時間でライトアップの準備をしなければならず、その時間が一番忙しく、私たちも、手伝ってくださった方々も境内を走り回っていたと思います。どの程度人が来てくれるか分からず不安に思っていたが、思っていた以上の方に来ていただき、また、楽しそうに短冊を書く姿は企画した側としてとても嬉しく感じました。普段、お祭りに参加することはあっても、運営側とかかわることは中々ないと思います。ちょうちんまつりの企画側として、大殿地域の方々と交流できたことや、祭りがどのように運営されているのかという全体像を内部で体験できたことは、私の中でとても貴重で得難い経験になったと思います。私達の企画はつたないものだったと思いますが、大殿地域の多くの方々にサポートしていただくことによって実行することができました。私達の企画が少しでもお祭りに貢献できていたのなら幸いです。これからも、大殿地域との交流を積み重ねていけたら嬉しいです。

(人文学部3年 堀井さやか)

今回の企画は1年越しでようやく実現したもので、無事に終わったことにほっとすると同時に、充実感でいっぱいになりました。初めての試みだったこともあり、終わった後もっとこうすればよかったという反省も多くありましたが、たくさんの方が足を延ばしていただき、企画に参加し笑顔で帰っていく姿を見て本当にうれしく思いました。今回の企画を通じて自分たちの考えた企画を自分たちの手でかたちにすることの楽しさや難しさを感じました。時間のない当日にLEDライトをカササギの形に早く並べるにはどうすればいいか、境内の照明の灯はどれくらい点けると安全で、かつ趣のある雰囲気のできるのか、壁はもちろんありましたが、地域の方々がいつでもあたたかく見守ってくださったからこそ成功した企画だとも感じています。準備の段階からアドバイスをいただいたり、リハーサルや本番で手を貸していただいたりしました。迎え入れてくださり、わたしたち学生の意見を全面的に支持して、わたしたちのやりたいように、やりやすいように配慮してくださったこと、本当に感謝しています。また、今回の企画を通じて地域の方とつながることができたのもわたし自身にとってとても大きなことでした。わたしの地元は今回の企画が行われた大殿地区です。愛着はありましたが、こうして地域の方々と一緒にひとつのことを経験し、今まで以上に素敵な場所だと感じるようになりました。今回の経験やつながりを大切に、これからの挑戦にも生かしていけたらと思います。

(人文学部3年 廣本明日香)

やまぐち探訪記 第十回 (明治維新胎動地(萩市)・策源地(山口市))

2018年は明治維新から150年のアニバーサリーイヤー。この節目の年を記念して、山口県内では多くのイベントが企画開催されました。皆さん、参加されましたか。この節目の年に、山口の地で、教え、学ぶことに感謝したいです。



明治維新胎動地・萩市、明治維新策源地・山口市には多くの史跡が残り、いつも楽しみに散策しています。しかし、最近、気になることが一つあります。そのきっかけとなったのは、NHK大河ドラマ『西郷どん』で盛り上がる鹿児島・島津家別邸「仙巖園」を訪れ、旧藩主・島津家の威厳や地域貢献を目の当たりにしてからです。明治維新というと維新志士の活躍に目を奪われがちですが、彼らを支えた藩主の存在が非常に大きいです。

薩長雄藩の両藩主といえば、「毛利家」と「島津家」。山口県内には、「毛利家」ゆかりの場所が沢山ありますが、最近訪れた山口市の「野田神社」や萩市の「東光寺」などはもっと大切に保存、愛される場所なのではないかと思います。

ぜひ、「毛利家」の威厳を讃え、敬うことこそ、明治維新を振り返り、次の150年に向かたアクションの原点となるのではないかと思います。そんな素晴らしい聖地を足繁く訪れてみてください。

やまぐち探訪記も記念すべき第10回を迎え、心機一転、新たな探訪が続きます！





学生スタッフ募集!



オン・キャンパスでジョブ
オフ・キャンパスでチャレンジ



大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

Our Works!

共育ワークショップ
山口大学の教育(共育)について
学生・教職員が一体となり共にはぐくむ場
年に一回開催!

共育の丘だより
大学教育センターでの
活動や広報のため
年に二回発行!

**山口大学・大学教育再生加速プログラム
(YU-AP)推進事業**
2014年秋に採択された全学を挙げての事業
学生・教職員が協働して推進!

SLPの開発
⇒ Student Leader Program
リーダーシップ養成
学習相談会(ピア・サポート)
キャリア学習会(就業力支援)...

学生向けの
新・正課外教育プログラムを
教職学協働で創造!

学生FDサミット
全国を飛び回って大活躍中!!

オン・キャンパスでジョブ
学修到達テストの補助業務
学内企画イベントの補助業務
オフ・キャンパスでチャレンジ
学生FDサミットに参加して他流試合
山口市・長門市・周防大島などの体験学習

Contact!

YU-AP推進室
TEL:083-933-5261
E-mail:yuap@yamaguchi-u.ac.jp

編集チーム

林 透
(大学教育センター准教授)
伊藤 千恵美
(教育企画係)

学生メンバー

香川 万由子 (経済学部4年)	原 きく乃 (人文学部2年)
廣本 明日香 (人文学部3年)	杉本 寛晟 (経済学部2年)
堀井 さやか (人文学部3年)	大亀 洋輔 (理学部2年)
岡 寛範 (経済学部3年)	生島 歩 (工学部2年)
川田 海榮 (経済学部3年)	藤井 聖也 (工学部2年)
今徳 凌太 (経済学部3年)	松瀬 可菜子 (農学部2年)
増田 雅也 (国際総合科学部3年)	谷崎 絵美里 (農学部2年)

発行:

大学教育センター
(2018年12月20日 発行)

編集後記

今回も学生たちは色々な活動をし、体験しました。同志社大学の訪問では他大学の様子を知ることができ、新しい刺激になったのではないのでしょうか。学生FDサミットは開催校によって特色があるようで、今回は「しゃべり場」が特に印象強いようでした。また、ちょうちんまつりでの活動は自分たちで企画し、それが実現となり大きな喜びを得たようです。

この度、共育の丘だよりは第10号発行となりました。これからも共育がますます発展していくことを願っています。

(教育企画係 伊藤千恵美)

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます